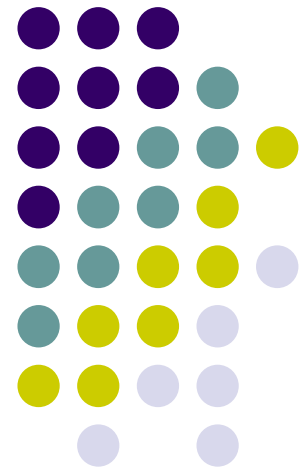


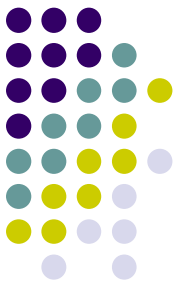
授業資料ナビゲータ (PathFinder)の作成と活用

千葉大学附属図書館

鈴木宏子@大阪大学会場

中村澄子@国立情報学研究所会場

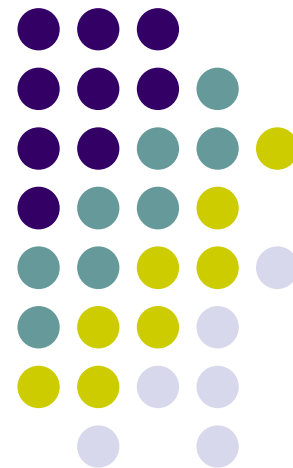


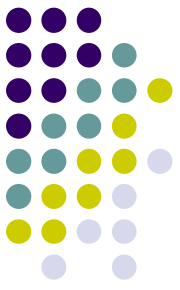


内容

- パスファインダーとは
 - 図書館員のスキルを発揮できるプロダクツ
- どうやって作るか
- 千葉大学の試み = 授業との連携
 - 理念と背景
 - 企画、製作、配布
 - 教員との協働作業
 - 評価と改善
- 今後の展開と課題

パスファインダーとは





パスファインダーとは

- 「ある主題について、関連する文献・情報の探索法をまとめたもの。一般にリーフレット形式でまとめられる。」
(図書館ハンドブック第6版)
- 「図書館資料をよりよく利用するための道しるべ」(注1)
- 「わかりやすく言えば、利用者が特定の主題に関する情報収集を図書館で行う際の、最初のとっかかりとなる図書館資料のガイドもしくは要チェックリスト」(注1)

図書館員のスキルを発揮できるプロダクツ

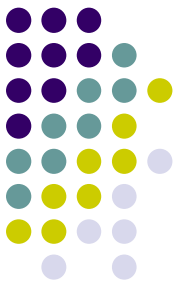


パスファインダーの特徴

- 特定のトピック (topic) を扱っている
- ナビゲーション機能がある
- 資料・情報源の一覧性がある
- 簡便に情報にアクセスできる

(パスファインダーバンクホームページによる)

http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/pfb/pfb_frameset.htm



パスファインダーとは呼べないもの

- 図書館の「利用案内」
- 特定のトピックに絞られていない、全般的な「本の探し方」「雑誌の探し方」「データベースの使い方」
- 特定ツールのマニュアル(「日経テレコンの使い方」「雑誌記事索引の使い方」など)
- O P A C 検索結果のみのリスト
- 特定のトピックに関する文献(サイト)リスト

(パスファインダーバンクホームページによる)

http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/pfb/pfb_frameset.htm



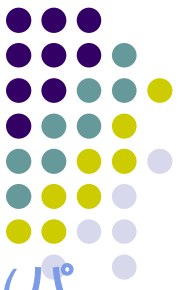
よいパスファインダーは、、、

- 単なる「文献リスト」ではない
- 単なる「情報源の使い方」ではない
- 情報源が一般的すぎない

➤ 図書、雑誌、Webサイトなどの1次資料(情報)のガイド

➤ 必要な二次資料のガイド(この場合はキーワードの案内を含む)

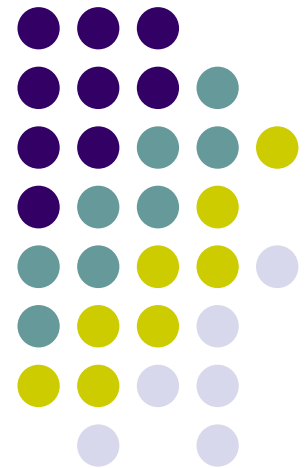
両者がバランスよく含まれている



実例

- 記録管理、アーカイブズ、レコードキーピングをめぐる情報源案内(パスファインダー)(NII古賀先生作成)
 - http://research.nii.ac.jp/~tkoga/recordkeeping_guide.html
- 愛知淑徳大学図書館パスファインダー
 - http://www2.aasa.ac.jp/org/lib/j/netresource_j/pf_j.html
- E-TOPIAパスファインダー(東京学芸大学)
 - http://library.u-gakugei.ac.jp/etopia/index_p.html
- 情報への道しるべ(名古屋大学)
 - <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/guide/literacy/index.html>
- 公共図書館パスファインダーリンク集(国立国会図書館)
 - <http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/pathfinderlinks.html>
- パスファインダーバンク(私立大学図書館協会)
 - http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/pfb/pfb_frameset.htm

どうやって作るか





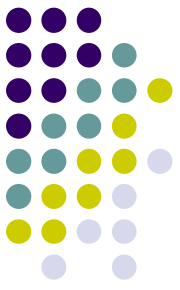
どうやってパスファインダーを作るか

- 何の手がかりもないところから作るのは大変
 - 既に作られている「文献案内」(Guide to literature)を活用
 - 既に作られている「サブジェクトゲートウェイ」を活用
 - 既に作られている「調べ案内」を活用
 - パスファインダーバンクを活用(参加)

文献案内

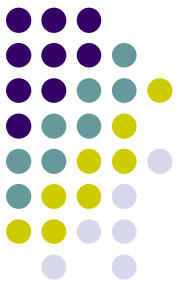


- Guide to literature
 - アメリカでは古くから様々な分野についてこれが作られ、単行書の形で刊行されてきた
 - 日本では限定された分野で刊行されてきたのみ
 - テキストブックの一部として文献案内が含まれていることもある
- [Research & Subjects Guides](#) (Cornell University Library)
- [Research Guide by Subjects](#) (Yale University Library)



サブジェクトゲートウェイ

- インターネット上に存在する有益な情報源にアクセスできるように、メタデータを作成、編集して、検索可能にしたもの。
 - [データベース集成](#) (ACADEMIC RESOURCE GUIDE)
 - [学術情報インデックス](#) (東京大学附属図書館)
 - [サブジェクト\(経済学分野\)・ゲートウェイ・サービス Engel](#) (東京大学経済学部図書館)
 - [データベース案内](#) (千葉大学附属図書館)

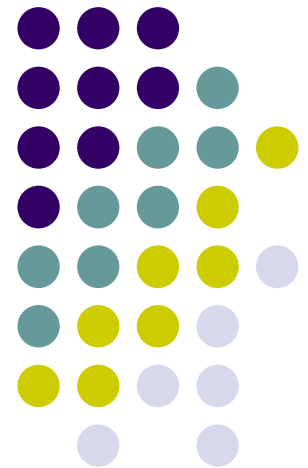


調べ案内

- テーマ別調べ案内 (国立国会図書館)
- テーマ別に調べるには「知っていると便利シリーズ」(東京都立図書館)

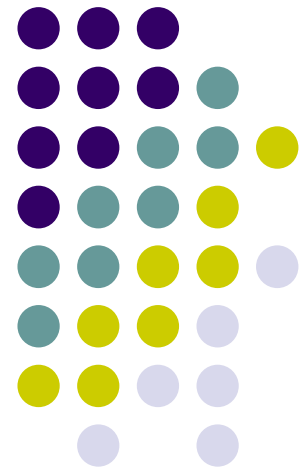
千葉大学の試み

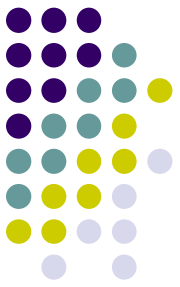
授業と連携したパスファインダーの
作成



千葉大学の試み

理念と背景





理念と背景

- 中央教育審議会大学分科会制度・教育部会「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」平成20年3月^(注2)
 - 初年次教育の重要度
 - 図書館の利用・文献検索の方法
- 千葉大学中期目標「図書館機能の高度化とデジタルキャンパス化推進」
 - 中期計画「カリキュラムに即し、授業に密着した情報提供の強化策を検討・実施」



中期目標、中期計画を踏まえて

- 教員との連携の強化

- リエゾン・ライブラリアン・プロジェクトの発足(注3)

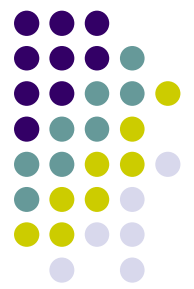


- 何ができるか？



- 千葉大学の現状把握から

現在の学習環境



教員

シラバス
授業、研究

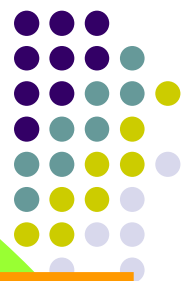


図書館員

本・電子ジャーナル
等の所蔵資料
図書館



リエゾン・ライブラリアンが関わる学習・研究環境



教員

シラバス
授業、研究



図書館員

本・電子ジャーナル
等の所蔵資料
ガイダンス

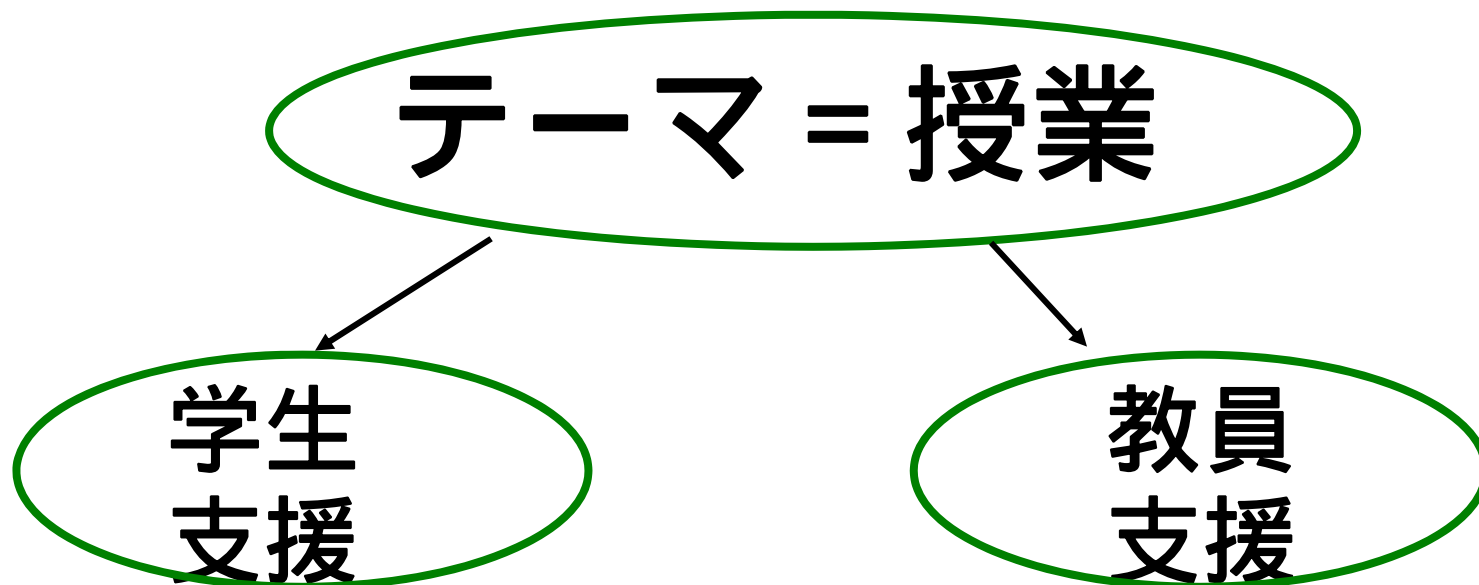
分野ごとのサポート

千葉大学附属図書館の2006年度 計画



- 「教養教育である普遍教育の授業に連携し、**テーマ別情報資源案内を作成する**」
- 「学生の情報収集活用法の習得を支援する」

テーマ別資料案内 = パスファインダー



- **主題知識の乏しい初学者へのナビゲーションツール**

ターゲット 学部1、2年生



主題知識

多



少

教員

・主題に関する調査が詳くなる程、必要な情報源は多様化する。

大学院生

・主題知識を有するほど、必要な情報源を選択する力がついてくる。

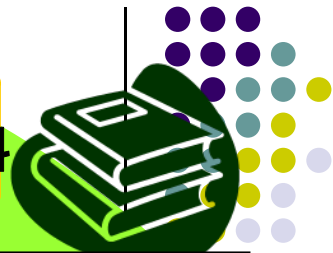
学部3、4年生

学部1、2年生

・主題知識の少ないうちは、「どうい
う場合に何を見れば良いか」を知
るためにも、具体的な情報源を示
す必要がある。
= パスファインダーが有効

将来の学習・研究環境

電子資料



資料構成の最適化

教員

シラバス
授業、研究



ウェブ版

紙版

パスファインダー

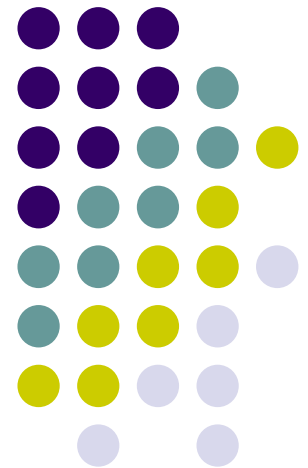


図書館員

本・電子ジャーナル
等の所蔵資料
図書館

千葉大学の試み

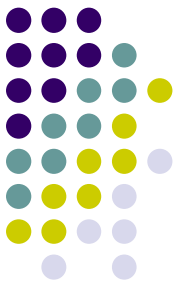
パスファインダーの企画





普遍教育教養コア科目 パスファインダー作成の経緯 発足から作成公開まで(2006～2007)

- 2006.6 普遍教育センターと連携協議
学長に対し、米国視察報告と、リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト計画のプレゼンを行う
- 2006.10 リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト発足(7名)
普遍教育センターと次年度開設科目パスファインダー作成打合せ
- 2006.12 普遍教育教養コア科目担当教員とパスファインダー作成について
意見交換
- 2007.1 部局長連絡会で事業の紹介
試作品完成
- 2007.2 未所蔵資料の発注
- 2007.3 パスファインダー完成(29科目作成)
- 2007.4 パスファインダー公開、パスファインダーコーナー設置



パスファインダーの企画

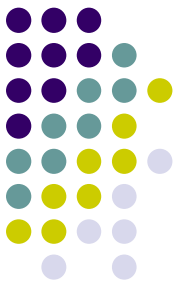
● 作成対象科目の選択

- 1年生必修の教養教育課目 = 普遍教育科目教養コア科目
- 全6分野 120科目のうち、以下の60科目を対象とした
 - 人文社会学系の3分野
 - コアA(倫理と哲学) 20科目
 - コアC(芸術と文化) 20科目
 - コアD(社会と歴史) 20科目



パスファインダーの企画

- **テンプレートの作成**
 - 分量 A4 2ページ (両面印刷で1枚)
 - デザイン、配色の決定
 - 授業名、授業コード、担当教員名、分野を記載
 - キーワードを記載
 - Web情報、図書、参考図書、論文、視聴覚資料などを列記
 - 各資料になるべく小さいコメントを付ける
- **「本や論文を探す方法」を用意しリンク**
 - 本や論文の基本的な探し方は専用のガイドを用意 (HTML版)

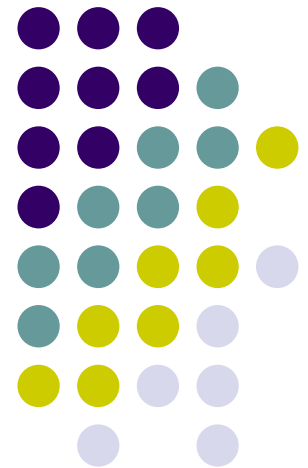


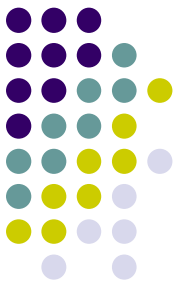
パスファインダーの企画

- 配布方法
 - web(html、PDF)での提供
 - 紙による提供
- 周知方法
 - 図書館、普遍教育センターWebサイトからのリンク
 - 図書館、普遍教育センターにポスター等
 - 新入生向け資料に掲載
- 資料の可視化
 - 掲載された図書は集めて配架する(コーナーを作る)

千葉大学の試み

作成：教員との協働作業





教員との協働作業 1. 呼びかけ

教員



図書館員

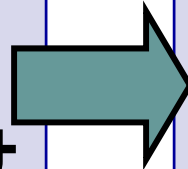
- コア科目A,C,D各分野主任教員と協議
 - 主任教員から各担当教員への周知
- 図書館長から文書で作成協力依頼
- 図書館員(プロジェクトメンバー)から各教員に呼びかけ
- 作成呼びかけに応じてくれた教員との協働作業が始まる



教員との協働作業 2. 調査

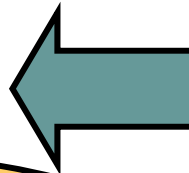
教員

- 授業のテーマ
- キーワード
- 紹介したいWebサイト
- 参考文献



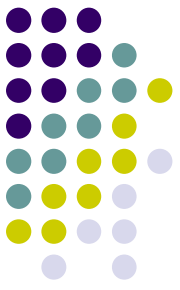
図書館員

- 教員指定の参考文献の所蔵調査
- 未所蔵であれば入手可否調査し古書まで購入



- 百科事典・専門事典等の調査からその他の基本・関連文献を抽出・所蔵調査
- 教員へ掲載の可否を尋ねる

フィードバックの繰り返し作業



教員との協働作業 3. 編集・査読

教員

図書館員

- 編集されたものを査読・修正

- テンプレートに文献リストを作成・編集
- Web上でアクセス可能なものにリンク
- 図書情報(OPAC)にリンク
- 体裁を整え2ページ(A4)に収める

フィードバックの繰り返し作業

教員との協働作業

4. 校正・完成・公開・保存



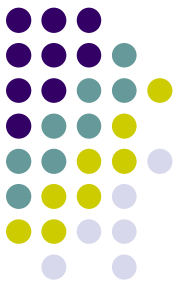
教員



図書館員

- 校正
- シラバスから紹介
- 授業で紹介・配布等

- 最終版作成
- 完成後、PDF版作成
- Webページに掲載
- 配布物印刷
- 最終版PDFを授業年度明記してCURATORに保存

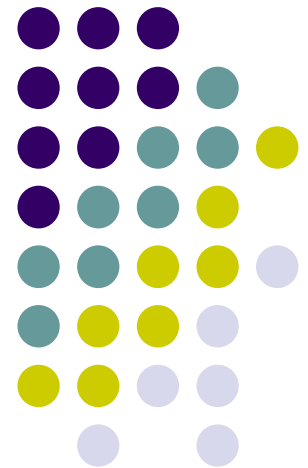


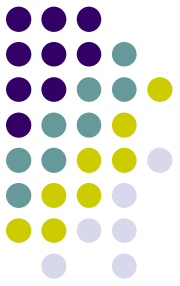
千葉大学教養コア科目の パスファインダー(H19年度)

- 対象60科目中29科目作成
- Web(Html, PDF)での提供
 - 図書館、普遍教育のページからリンク、シラバスのページから紹介
- 紙(リーフレット)による提供(配布、図書館に常備)
- パスファインダーコーナーの設置
 - 専用コーナーを設置
 - 掲載図書を配架(禁帯出)



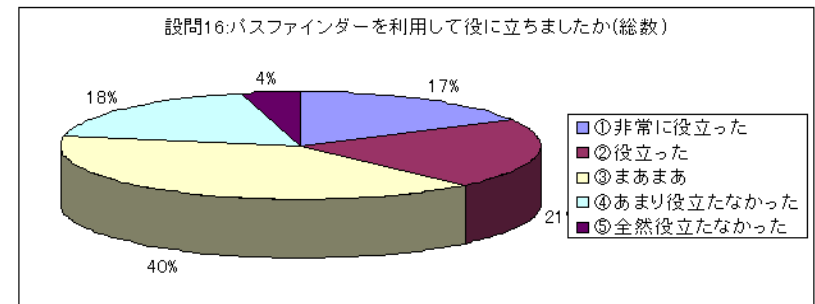
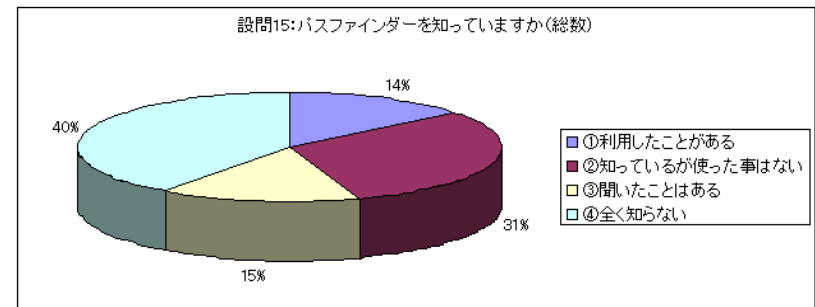
評価と改善



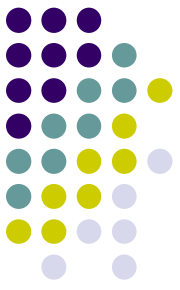


学生による評価 (H19年度)

- 学生による授業評価アンケート2問
 - 設問15: 利用したことがありますか？
 - 設問16: 役に立ちましたか？
- 設問15, 16(右図)によれば、「利用したことがある」は14%に留まり、「まったく知らない」が40%となり、周知が充分でないことを示す。
- しかし、「利用したことがある」人のうち、「まあまあ」も含め80%は「役に立った」と答えており、利用した人には有益であったといえる。



教員による評価(メールアンケート) (H19年度)



● 好意的意見

- 「図書館で参考図書を手にとって見たという学生がいた！」
- 「周知徹底できなかったものの、基本文献はすでに示してあるという安心感を学生と共有できた。」
- 「かなり興味を持ってみてくれており、ここから他の資料を検索するなどの利用もあったのではないかと思います。」
- 「講義中に参考文献をいちいち書き上げる手間が省けた。」
- 「講義内容の理解やレポートの作成に役立つ情報が提供されているので、恐らく有益であったと思います。」
- 「短い本の紹介文を付けていただいで助かりました。」

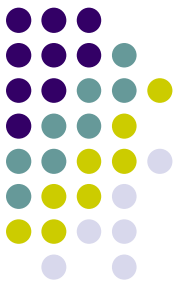
教員による評価(メールアンケート) (H19年度)



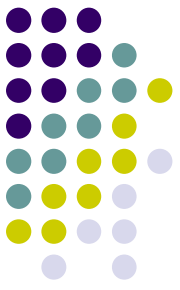
● 問題点指摘

- 「パスファインダーの意味がよくわかりません。これは日本語ですか？ できたら、従来のことばで命名したいのです。」
- 「授業中に口頭で紹介しましたが、実際見てみた学生は多くなかったようです。コピーを配布すべきであったと、後から思いました。」
- 「図書館にない本を購入する手順をもう少し柔軟にして欲しい」
- 「指定した本がまとまって置かれるのは便利ですが、その反面、貸出が出来なくなるのは、一般の学生には不便では、と思いました。」
- 「授業の進行に応じた体裁にしても良いのではないか。学生はどこから手を付けてよいのか結局わからなくなる。」
- 「初めてのことで事情がよく飲み込めない部分がありました。もっと工夫すればよりよい内容になると思います。」

パスファインダー2008(H20)への改善点



- 名称を「**授業資料ナビゲータ(PathFinder)**」と変更
- **最初の授業までに学生配布分をコピーし教員へ配布**
- **掲載資料の提供**
 - **図書は2冊常備(1冊は貸出可、1冊は不可)**
 - **教員著作は電子化して千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR)から公開**
- **授業ごとに、文献リストの構成は柔軟に対応**
 - **希望の教員には、図書や論文といった形態別だけではなく、授業の進行状況に合わせた資料の紹介も行う。**
- **資料提供以外の図書館機能をフルに活用**
(希望の教員には)
 - **音声による授業紹介(PodCastによる授業紹介)**
 - **授業にあわせた展示企画**



普遍教育教養コア科目 パスファインダー作成の経緯 1年目の評価と改善へ(2007～2008)

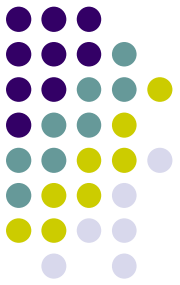
- 2007.10 学生と担当教員アンケートにより改善案策定
- 2007.12 「授業資料ナビゲータ(PathFinder)」と名称変更

- 2008.1 担当教員と協働作業を開始
- 2008.2 未所蔵資料の発注
- 2008.3 「授業資料ナビゲータ」完成(47科目作成)
- 2008.4 「授業資料ナビゲータ」公開、
「授業資料ナビゲータコーナー」設置
- 2008.5 授業に関連する展示とポッドキャスト公開(トルコの歴史)
- 2008.6 授業に関連する展示とポッドキャスト公開(源氏物語絵巻)

千葉大学教養コア科目の 授業資料ナビゲータ (パスファインダー)

- 対象60科目中47科目作成
- Web(Html, PDF)での提供
 - 図書館、普遍教育のページからリンク、シラバスのページから紹介
- 教員著作のフルテキストがあればCURATOR(リポジトリへリンク)
- 紙による提供(教員より全学生へ配布、図書館に常備)
- 授業資料ナビコーナーの設置
 - 掲載図書を原則2冊(貸出用と館内利用用)を配置





千葉大学授業資料ナビゲータ

- <http://www.ll.chiba-u.ac.jp/pathfinder/>

PathFinder 探しものは何ですか?
授業資料ナビゲータのすすめ

本や論文を探す方法

情報源さえわかれば大丈夫。あとは自分で学んでいけます。

どんな本があるのかわからない、どう探せばいいの見当がつかない、そんな方も多いのではないしょうか。それは情報への入口がわからないだけかもしれません。
「授業資料ナビ(PathFinder)」は情報への入口として、授業で「習い」、自力で「学ぶ」みなさんのための案内役となります！

授業資料ナビゲータ(PathFinder)とは・・・

- ▶ 授業で学ぶ内容の基本的な知識が得られる情報源やキーワードを、コンパクトにまとめたリストです。
- ▶ ウェブページや紙で提供されるので、インターネットの検索に取り掛かるのも簡単、図書館で本を探しに行くにも便利です。
- ▶ 講義を行なう先生と図書館が相談して作ったものなので、授業にピッタリです。

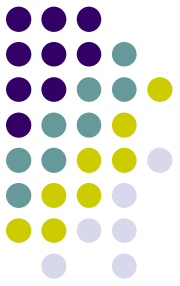


授業資料ナビにはこんな効果が期待できます

- ▶ 情報源とキーワードが示されているので、蔵書検索やデータベース、インターネットの検索にすぐ取り掛かれます。
- ▶ 調査にかかる時間が短くなるので、授業の予習、復習を効率よく行うことができます。
- ▶ 学生のみなさんは授業資料ナビを手がかりとして、更にたくさんの情報を自分で得ることができるようになります。

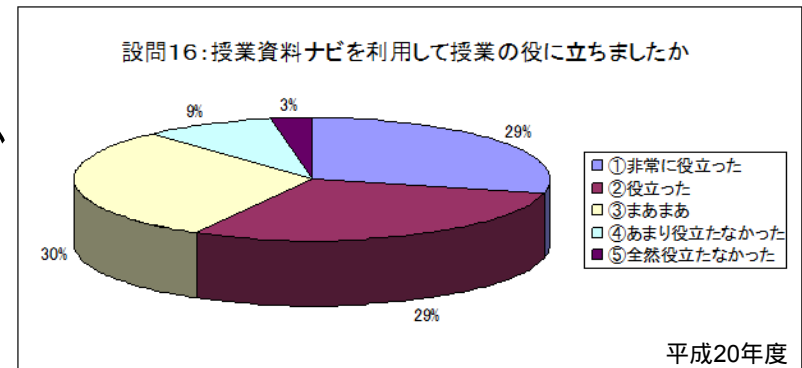
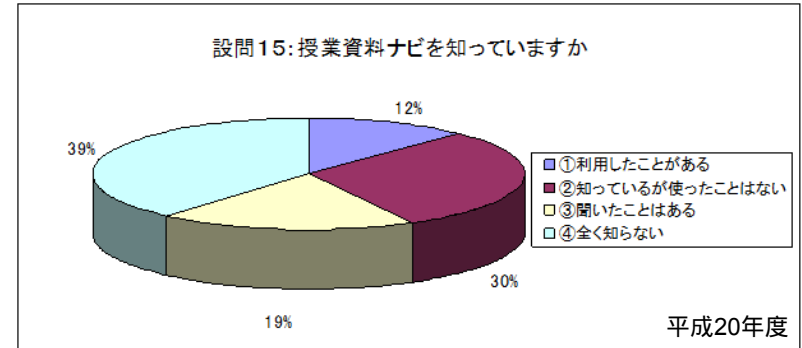


授業資料ナビ入口

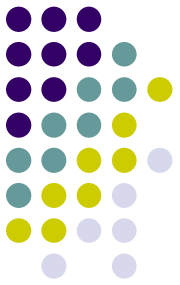


学生による評価 (H20年度)

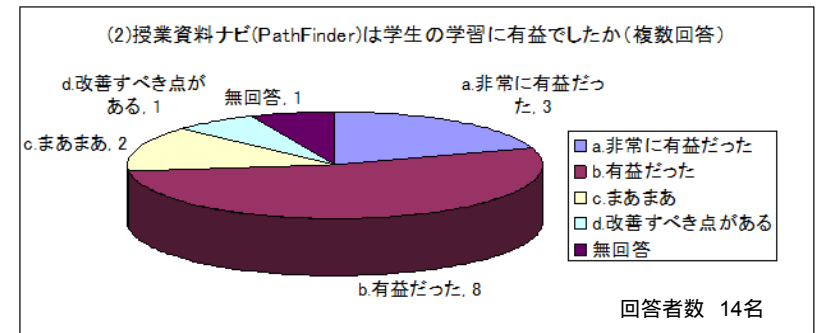
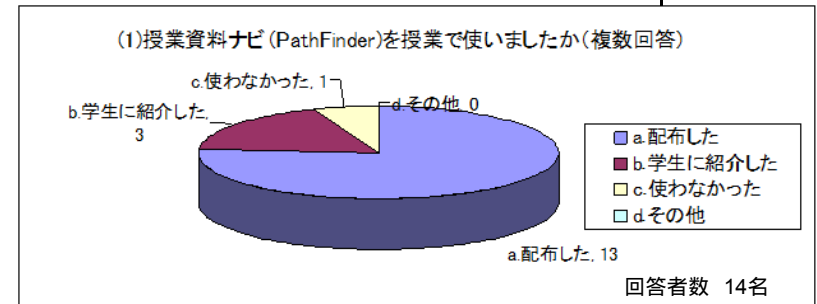
- 学生による授業評価アンケート2問
 - 設問15:利用したことがありますか？
 - 設問16:役に立ちましたか？
- 設問15, 16(右図)によれば、「利用したことがある」は12%に留まり、「まったく知らない」が30%となり、周知がまだ充分でないことを示す。
- しかし、「利用したことがある」人のうち、「まあまあ」を合わせると91%が「役に立った」と答えている。利用した人には有益であったといえる。
 - 昨年前期のアンケートと比較
 - 1.非常に役立った 12% → 28%
 - 2.役立った 20% → 29%



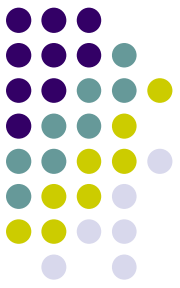
普遍コア担当教員によるご意見 (メールアンケート)(H20年度)



- (1)授業資料ナビ(PathFinder)を授業で使いましたか
- (2)授業資料ナビ(PathFinder)は学生の学習に有益でしたか
- 参考文献が一目で分かり、学生がレポートを書く上でも有益。
- 提出されたレポートに参考文献を読んだ形跡があった。
- 関連文献の情報が、欠席・聞き落としがあっても図書館のウェブサイトがあれば確実に学生に伝わる。
- 授業内容と連動させて図書館に配架されているのはとても有益。もちろん自力で探すということも大事だが、きっかけをつかみやすいという意味ではとても良いように思う。



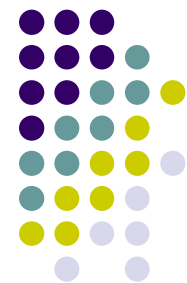
普遍コア担当教員によるご意見 (メールアンケート)(H20年度)



- 専門科目向けでは？との意見も

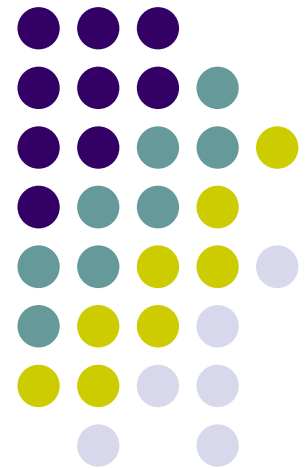
- 制度そのものは賛成です。しかし教養コアにこの仕組みがぴったり合うかどうかは疑問です。なぜならばほとんどの学生が専門外である場合が多く教える側からすれば「せめてこの1冊はちょっと読んでみる」的な紹介が一番なように思っています(つまり授業で「これは読め」って感じの印象をつける紹介ですね。)それを考えると、この仕組みは教養展開科目や学部の専門科目にこそあるとよいのかな(特に教養展開科目)と感じました。

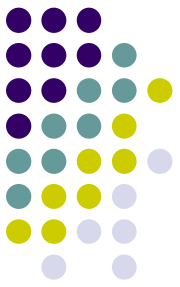
授業と連携したパスファインダー作成の メリット



- 初年次学生の図書館と資料利用のサポート
- 図書館蔵書構成と授業との連携
- 教員と図書館の協働作業

今後の展開と課題



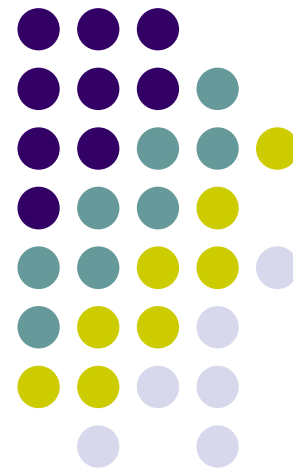


今後の展開と課題

- 専門科目への展開
 - 文学部との連携
- 労力をいかに省くか
 - 編集・作成を簡便に、システムティックに
 - TAなど協力者への働きかけ

パスファインダーとは

- 図書館員のスキルを発揮できるプロジェクト
- 教員(あるいは学生)との協働を進めることのできるプロジェクト





参考文献

(注1) 鹿島みづき、山口純代「図書館パスファインダーにみる次世代図書館の可能性」『情報の科学と技術』52(10)526-537,2002)

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110002826712/> (参照2008-10-10)

(注2) “学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)”。(オンライン),
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm (参照2008-10-10)

(注3) 金山亮子、武内八重子「日本におけるリエゾン・ライブラリアン - 千葉大学附属図書館の挑戦」『専門図書館』No.222 2007.3 p.15-20
http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/irwg5/liaison_librarian.pdf (参照2008-10-10)